

飯田短期大学・仁愛女子短期大学

相互評価報告書

令和8年3月

飯田短期大学・仁愛女子短期大学

目次

1. あいさつ.....	2
2. 実施日程と概要	
第1回相互評価会議.....	4
第2回相互評価会議.....	6
3. 学長講評.....	8
4. 相互評価会議における質疑の概要	
第1回相互評価会議での質問事項.....	12
第2回相互評価会議での質問事項.....	22
5. 編集後記.....	35

1. 挨拶

飯田短期大学学長

武分 祥子

仁愛女子短期大学様とは、平成 22 年に「相互評価に関する協定書」を結ばせていただいてから、今回で 4 回目の相互評価の実施となります。7 年前の 3 回目の相互評価では、看護学科長として福井にある貴校に行かせていただき、こちら飯田の地でも皆様をお迎えしたことを覚えております。その折とは相互評価のメンバーや役割も変化しましたが、お世話になり面識のある方々と再び協議できることに心強く感じております。

この相互評価を通じて、仁愛女子短期大学様には長年、さまざまな側面より学ばせていただいております。そのお陰で本学の体制も整備されてきており今日に至っております。前回と一番大きく異なる点としては、本学が令和 5 年に男性も入学して共学となったことではありますが、開学時より建学の精神「うつくしく生きる」を根本とした人間（ひと）を大切に教育は大切に貫いております。

現在、大学教育は新たな運営のあり方を社会に求められ、その中でも短期大学はとくに大きな変革期を迎えています。今回の相互評価では、改めて互いの教育研究の普遍性や価値を確認し、両短期大学が今後に向かうための示唆が得られればと思っております。短期大学は今日、入学者確保の面で一層厳しさを増していますが、地域にとって不可欠な短期大学であるという両短期大学の強みもこの機会に再確認し報告書とできれば幸いです。

仁愛女子短期大学学長
禿 正宣

飯田短期大学様との相互評価も4回目ということになりますが、今回は相互訪問を取りやめ、画面を通しての開催となりました。コロナ禍のもとで行われた前回の認証評価での遠隔実施の経験はあったものの、対面同様に質疑応答がスムーズにいくかと心配もありましたが、両短期大学のALOを中心とした周到なご準備により、無事終えることができました。自己点検評価報告書の作成を始め、実施にご苦勞いただきました両短期大学の関係者の皆様にはまずもってお礼申し上げます。

継続して行われているこの相互評価の取り組みは、7年に一度の認証評価への準備としての意味合いもありますが、定期的実施することで、建学の精神を基盤とした教育がどのように維持されているか、一方では社会状況の変化に対応して、取り組みがどのように改善・工夫されているかなどについて、いわば双方にとっての定点観測的な役割にもなっているかとも思います。特に、建学の精神から一貫した3ポリシーの設定とそれに沿った質保証がより求められ、それを裏付けるためのアセスメント手法などについても検討が必要となっており、お互いの取り組みを参考にできることには大きな意義があります。

全国的に短期大学を巡る状況は一段と厳しさを増しているのは両短期大学にとっても同様ではありますが、今回の相互評価を参考に教育研究の見直しをすすめていくことで、地域に必要とされる身近な高等教育機関としての存在感をさらに高めていければと願い、相互評価のまとめにあたってのご挨拶といたします。

2. 実施日程と概要

2.1 第1回相互評価会議〈受審校：仁愛女子短期大学〉

日 時：令和7年9月2日（火）13：00～16：00

場 所：オンライン開催（Zoom）

次 第：13:00 【評価】

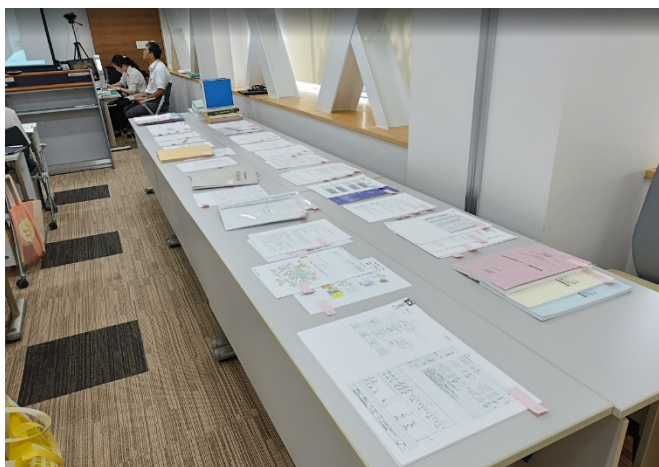
1. 開会 仁愛女子短期大学 ALO 中尾 繁史
2. 学長あいさつ 仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣
飯田短期大学 学長 武分 祥子
3. 評価・質疑応答 ※事前確認・質問票の順（一質問3～5分程度）

14:15 【休憩】

14:30 【総評】

4. 総評 飯田短期大学 学長 武分 祥子
5. 御礼 仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣

14:45 【閉会】



飯田短期大学 出席者名簿（敬称略）

	役 職	氏 名
1	学長	武分 祥子
2	事務局長	矢澤 庸徳
3	法人本部事務局長	木下 幸彦
4	地域連携センター長・生活科学学科長	友竹 浩之
5	学務部長	稲吉 政岳
6	管理部長	山口 正之
7	学生課長	渡邊 千春
8	FD 委員長・教務委員長・生活科学専攻主任	奥井 現理
9	幼児教育学科長	青木 千恵美
10	看護学科長	鈴木 真由美
11	自己点検評価委員会事務局・広報課長	吉澤 智子
12	自己点検評価委員会事務局（記録）	湯澤 萌捺美
13	自己点検評価委員会事務局（記録）	塚田 和也
14	自己点検評価委員会事務局（ALO）・学生委員長	神澤 絢子
15	自己点検評価委員長（ALO）・副学長	三浦 弥生

仁愛女子短期大学 出席者名簿

	役 職	氏 名
1	学長	禿 正宣
2	副学長・幼児教育学科長	石川 昭義
3	生活科学学科長	田中 洋一
4	総合学務センター長	大西 新吾
5	情報資源センター長・附属図書館長	島田 貢明
6	情報メディア教育支援室長	辻岡 和孝
7	研究活動委員長	木下 由香
8	FD 委員長	澤崎 敏文
9	生活科学学科次長	野本 尚美
10	幼児教育学科次長	増田 翼
11	総合学務センター次長	香月 拓
12	点検評価推進室員	重村 幹夫
13	点検評価推進室長（ALO）	中尾 繁史
14	法人事務局長・学長室長	渡辺 利章
15	法人事務局長次長	吉川 敏通
16	事務長	熊木 雅代
17	事務局次長	福岡 昭雄
18	学長室次長	前野 泰弘
19	情報資源センター附属図書館課長	竹下 真弓
20	学び支援課長	木戸 公恵
21	キャリア支援課長	高森 武司
22	入学・地域支援課長	後久 真嗣
23	総務課長	佐々木 美佳

2.2 第2回相互評価会議〈受審校：飯田短期大学〉

日 時：令和7年9月9日（火）13：00～16：00

場 所：オンライン開催（Zoom）

次 第：13:00 【評価】

1. 開会 飯田短期大学 ALO 三浦 弥生
2. 学長あいさつ 飯田短期大学 学長 武分 祥子
仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣
3. 評価・質疑応答 ※事前確認・質問票の順（一質問3～5分程度）

14:15 【休憩】

14:30 【総評】

4. 総評 仁愛女子短期大学 学長 禿 正宣
5. 御礼 飯田短期大学 学長 武分 祥子

15:00 【閉会】



仁愛女子短期大学 出席者名簿（敬称略）

	役 職	氏 名
1	学長	禿 正宣
2	副学長・幼児教育学科長	石川 昭義
3	生活科学学科長	田中 洋一
4	総合学務センター長	大西 新吾
5	情報資源センター長・附属図書館長	島田 貢明
6	情報メディア教育支援室長	辻岡 和孝
7	研究活動委員長	木下 由香
8	点検評価推進室長（ALO）	中尾 繁史
9	事務長	熊木 雅代
10	事務局次長	福岡 昭雄

飯田短期大学 出席者名簿

	役 職	氏 名
1	学長	武分 祥子
2	事務局長・個人情報保護委員長	矢澤 庸徳
3	法人本部長・IR室・衛生委員長	木下 幸彦
4	地域連携センター長・生活科学学科長・研究倫理委員長	友竹 浩之
5	健康センター長	澤田 有香
6	学務部長（兼教務課長）	稲吉 政岳
7	管理部長（兼財務・庶務課長）	山口 正之
8	FD委員長・教務委員長・生活科学専攻主任	奥井 現理
9	SD委員長・健康センター主任	竹村 香
10	学生課長	渡邊 千春
11	幼児教育学科長	青木 千恵美
12	看護学科長	鈴木 真由美
13	幼児教育学科主任・研究倫理審査委員長	菱田 博之
14	介護福祉専攻主任・図書館長	太和田 雅美
15	食物栄養専攻主任	新海 シズ
16	看護学科主任・学生募集委員長	矢澤 玲子
17	基礎教養主任	田中 洋江
18	図書・学術委員長	高木 一代
19	全学集会プロジェクト	坂上 ちおり
20	自己点検評価委員会事務局・広報課長	吉澤 智子
21	自己点検評価委員会事務局（記録）	湯澤 萌捺美
22	自己点検評価委員会事務局（記録）	塚田 和也
23	自己点検評価委員会事務局（ALO）・学生委員長	神澤 絢子
24	自己点検評価委員長（ALO）・副学長	三浦 弥生

3. 学長講評

飯田短期大学学長

武分 祥子

飯田短期大学からの質問に対し、的確かつ詳細にご回答いただき、謝意を表したい。ALO を中心に、事前の打ち合わせや準備段階から組織として一貫した発言がなされており、相互評価への対応が十分に組織化されていることが確認できた。新たなメンバーを加えつつ、ALO および自己点検評価委員長を中心とした強固な協力体制が構築されている点は、高く評価できる。

また、報告書および提出資料は適切に整理されており、当日のオンラインでの提示方法についても概ね分かりやすいものであった。前回の相互評価および認証評価を踏まえ、貴校が課題に対して精力的かつ迅速に取り組まれている様子がうかがえ、本学にとって大いに参考となる点が多く認められた。

以下、基準Ⅰから順に所見を述べる。

基準Ⅰ 建学の精神について

建学の精神である「仁愛兼済」に依拠しつつ、今日の学生像に即した具体的かつ分かりやすい形で、教育全体に浸透させていることが確認できた。地域社会に対しても、従来 of 取組に加え、より一層充実した活動が展開されており、地域に開かれた短期大学としての役割を果たしている。

学修成果については、建学の精神に基づき、短期大学で学ぶことの成果を着実に示しており、三つの方針（ディプロマ・カリキュラム・アドミッション・ポリシー）を具体化している点が評価できる。特に、学修成果確認シートは、学生自身が学びを振り返り、成果をフィードバックできる有効なツールとして確立されており、高く評価できる。

加えて、キャリア・ルーブリックの作成により、自己点検評価における PDCA サイクルが構築・可視化されている点も確認できた。

組織体制に関しては、多くの学ぶべき点が認められた。教育計画キックオフ会は、目標の共有がなされ、意識面・実動面の双方から改革につながる取組となっていると考えられる。

また、幼児教育学科で説明のあったワーキンググループによる課題解決の取組は、個々の課題を全体へとつなげ、組織機能の円滑化に寄与する優れた実践である。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援

生活科学学科および幼児教育学科の双方において、学修成果の評価が可視化されている点は高く評価できる。

保育者養成に関して、福井県と学校法人が連携し、経済的支援としての特別奨学金制度や、トリプルライセンス取得を目指した協議会の立ち上げを行っている点は、極めて意義深い取組である。これは福井県のみならず、日本全体にとっても重要な課題への先駆的な対応の一つと考えられる。

授業管理システムの導入により、学生の学びを多面的に支援している点についても、本学にとって参考となる取組である。

当日の協議では詳細な説明はなかったものの、報告書からは、時代の要請に即した新たな取組に精力的に取り組まれていることが確認でき、これらについても大いに参考にしたい。

「Jintan 数理・データサイエンス・AI 教育プログラム」は、文部科学省の採択を受けた補助

事業であり、短期大学として非常に優れた取組である。

また、「未来協働プラットフォームふくい」が定める「ふくい地域創生士」の申請に関して、貴校学生のみならず他大学の学生も履修可能な仕組みを構築している点は、今後、他の短期大学においても注力すべき方向性を示すものといえる。

基準Ⅲ 教育資源と財的資源

教員の研究力向上を支援するために、研究成果優秀賞等を導入している点は、貴校独自の工夫として評価できる。

報告書に記載のあった「わたしの授業」は、教員の授業実践や工夫を動画で共有し、その内容に対する感想や意見をリアルタイムで集約・共有する取組であり、教員相互の情報交換や切磋琢磨を促進する有効な機会となっている。

学長と学生会との懇談会を通じて、学生の視点を重視した学校づくりが進められている点は高く評価でき、学生ファーストの姿勢や、学生と教職員との距離の近さを体現する取組となっている。

近年、非常勤教員の比率が高まる中、会議への参加に配慮し、意見交換を教育活動へ還元している点は評価に値する。

また、学生にとって安全・安心なキャンパス環境を実現するため、防犯対策やメディア環境の整備に迅速に取り組んでいる点も参考としたい。

教学マネジメント、IR、自己点検評価が有機的に連動し、学校運営の中核を担っていることが明確に示されており、貴校の大きな強みであるといえる。

総括

本学にとって、大いに参考となる内容であった。貴校および本学に共通して、短期大学を取り巻く状況には厳しい課題が多く存在しているが、特に教育資源をいかに地域課題と結び付け、具体的な介入につなげていくかが重要であることが、本日の報告からも示されていた。

仁愛女子短期大学は私立短期大学でありながら、福井県との結びつきが強く、これも貴校の大きな強みであるといえる。

地域性は福井県と長野県で一定の差異はあるものの、相互評価のような機会を通じて研鑽を積み、可能な取組から速やかに実行していくことの重要性を改めて認識した。

前回（第3回）の相互評価では若手教職員の声を聴く機会があったが、7年という時間の経過の中で、人の入れ替わりがあっても取組が継続されるよう、業務の円滑な継承が求められる。貴校においては、世代交代が円滑に進み、業務の継承が適切に行われていることが報告から読み取れた。

本学からの質問に対し、回答いただきありがとうございました。

先週は武分学長から、個別に非常に丁寧な評価を含めたご高評をいただいたが、学科・分野も異なることもあり、十分に集約できていない点もあるが、点検報告書を再読し、本日の質疑でいただいた回答をもとに、本日のまとめとさせていただきます。

基準Ⅰ 建学の精神に関する事項について

貴学の建学の精神については、これまでも説明を受けてきたところであるが、「うつくしく生きる」という句に集約された理念・目標が一貫して維持されていることが確認できた。宗教行事および全学集会が継続的に実施され、それらが教育目的・教育目標、さらには学修成果や学科・専攻レベルへと適切に展開されており、点検および見直しも適正に行われていると認められる。

地域社会との連携においては、飯田市をはじめとする複数の近隣自治体に加え、各種団体や四年制大学との連携が構築されており、授業展開や地域産業との産学連携活動も活発に行われている。これらの取組を通じ、地域の中核的存在として活動していることが確認できた。

また、公開講座が数多く実施されている点については、各種業務が増加する中であっても教職員の尽力により継続されており、その姿勢には高い評価を与えたい。

学生のボランティア活動に対する単位認定の在り方については、貴学のみならず多くの短期大学が共通して抱える課題であると認識した。

基準Ⅱ 教育課程と学生支援に関する事項について

各学科・専攻の教育課程は、資格取得を目的とする課程が多く、一定程度構成が定められている中で、それぞれの分野特性に即して適切に編成されていると評価できる。

基準Ⅱにおいて中心となる学修成果の獲得状況については、GPA 分析や各種統計データによる検証に加え、学科・専攻ごとにルーブリックを構築し、さらに学生の自己評価へとつなげている点について、非常に丁寧な説明がなされ、現状への理解が深まった。

また、長期履修制度については、本学においても検討課題として挙がることもあるが、現時点では制度導入に至っていないことから、貴学の取組は今後の参考としたい。

基準Ⅲ 教育資源について

人的資源については、教員配置、事務組織、FD・SD 体制を含め、教職協働の体制が確立され、適切に定められた上で運営されていると評価できる。

物的資源についても、概ね良好に整備されているが、一部バリアフリーに関する課題が残されているとの説明があった。完全な整備が困難な分野ではあるものの、引き続き改善に向けた取組が望まれる。

また、貴学は共学化に踏み切られており、これに伴う施設・設備面での対応については、本学としても高い関心を有していることから、今後機会があればご教示いただきたい。

総括

全体を通じて、追加質問も含め丁寧な回答がなされ、各基準に関する状況について、報告およ

び質疑応答を通して十分に認識することができた。特に、前回の認証評価以降、各基準に基づく多くの改善計画・行動計画を策定し、それらの実施に向けて継続的に努力されている点は高く評価でき、その姿勢に敬意を表したい。

次回の認証評価に向けた準備を早急に進める必要があるが、相互評価の対象外とされた財務やガバナンス等の分野については、今後さらに厳しい状況が想定される。そのような中であって、本相互評価を通じ、教育課程や学修成果といった、いわゆる教育の質保証に関する点を点検できたことには大きな意義があったと考える。

短期大学を取り巻く環境は、入学者確保の面で一層厳しさを増しているが、互いに地域にとって不可欠な短期大学であるという共通認識のもと、今後も努力を重ねていきたい。

4. 相互評価会議における質疑の概要

第1回相互評価会議〈受審校：仁愛女子短期大学〉

基準			
テーマ	A	区分	基準 I-A-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
1	<p>建学の精神に沿った実践活動の促進を図るためとして「社会活動実践」を設け、ボランティア活動の単位認定をされている。</p> <p>(1) ボランティア活動が建学の精神、理念の共有とどのように関連するか教えてください。</p> <p>(2) 「30時間以上のボランティア活動等を評価し単位認定を行う」とありますが、どのくらいの学生が単位認定を受けているか教えてください。</p>	<p>(1) 建学の精神「仁愛兼済」の語は、「仁愛」と「兼済」に分けられ、後段の「兼済」は「六和敬」の実践との結びつきが深いです。この「六和敬」は「身・口・意・戒・見・利」の各和敬とされていますが、これらは暮らしの中や社会活動の基盤であると言えます。特に、最後の「利和敬」は、「自利と利他、自立と思いやり、支え合い、ボランティア」などの行動を実践項目として位置づけています。この実践を踏まえて、美（うるわ）しい世の実現に向けた活動に参加しようとすることは、建学の精神、理念の共有に繋がるものであります。</p> <p>(2) 過去5年間の社会活動実践の単位認定者数は次の通りです。受講者数は少ないものの、当該科目を教育課程に位置付けること自体が、全学生に対して、建学の精神の理解と共有に資するものとして考えています。2020年度1名、2021年度0名、2022年度1名、2023年度0名、2024年度0名</p>	<p>●追加質問【鈴木 看護学科長】 ボランティア活動の位置付けは本学と似ていると感じた。単位認定者数が増えない理由は、何か考えておられるか？</p> <p>●回答【学長】 教養科目に位置付けているが、教養科目の必修の割合が多いため卒業単位が充足されており、単位不足にならない状況である。活動はしているが、あえて単位のために申請しないケースが一番多いと考えている。</p> <p>●意見【鈴木 看護学科長】 合えて申請しないというところは、本来のボランティア活動そのものであるということと感じた。単位認定することに対しては、賛否両論あると思うが、いずれにしても建学の精神を基盤として学生が活動できると良い。</p> <p>●意見【三浦 ALO・副学長】 本学でも同じような問題を抱えているため、質問させていただいた。</p>
2	<p>建学の精神に対し、教職員には全員参加の研修会、教育計画キックオフ会を実施されています。その具体的な内容や要している時間等を教えてください。</p>	<p>建学の精神研修会は毎年1時間程度で定期的実施しています。主に理事長による建学にまつわる講義となっています。</p> <p>令和2年度 オンデマンド（学生対象 AH「降誕会」「讃迎会・追弔会」の理事長講和の視聴（3月））</p> <p>令和3年度 オンデマンド（9月～3月）</p> <p>令和4年度 リモート（9月）</p> <p>令和5年度 面接／建学にまつわる DVD 鑑賞、理事長</p>	<p>●追加質問【山口 管理部長】 キックオフ会のプログラムを見て、とてもわかりやすく、参考にしたいと思う内容だった。キックオフ会を行い、最後のまとめの部分は各部署で行うということが良いか？</p> <p>●回答【学長】 キックオフ会の内容が当該年度のPDCAに繋がっているため、半年経過したところで自己点検評価委員会を開催し、実施状況のチェック（点検・評価）を行い、年度末にもチェックし次年度のアクション（改善計画）を示すこととしている。</p>

		<p>による建学当初にまつわる講義（9月13日）</p> <p>令和6年度 面接／理事長による建学当初にまつわる講義（9月11日）</p> <p>なお、面接での建学の精神研修会を欠席した教職員は、後日動画を視聴することとしています。</p> <p>教育計画キックオフ会は、例年4月の中・下旬ごろに、教職員全員が参加して90分程度の時間で実施しています。内容は、学長による当年度の事業計画の重点項目の説明と確認が行われ、そのあと学科・センターなどの各部局並びに教育研究活動の推進を担う各員会などから、昨年度の振り返りとともに、当年度の基本方針をもとに目標（P）及びアクション・プログラム（D）が発表され、当年度のPDCAサイクルのスタートとして位置づけています。</p> <p>*資料表示 ・キックオフ会のプログラム（学長準備）</p>	
テーマ	B	区分	基準 I-B-1
No.	確認・質問事項		回答
3	<p>幼児教育学科独自の組織であるカリキュラム・ワーキンググループについて教えてください。</p> <p>①組織の位置づけ ②組織の構成員 ③活動内容・頻度</p>		<p>①組織の位置づけ 幼児教育学科では、3つのポリシーをはじめとするカリキュラム関連の課題を検討する下部組織として「カリキュラムWG」を置いています。「カリキュラムWG」で原案を作成し、それを学科会議の審議事項として諮ったうえで、教育課程委員会や代表教授会（最近ですと教学マネジメント委員会も）などの全学的な会議に提案するという手順で運営しています。 学科内役割分担表をさかのぼると、WG設置は「平成24年度（2012年度）」からとなっています。当初は、学科長、次長、各学年主任をメンバーに据え、さらに教育課程委員会のメンバーだった増田を加えて結成されました（WG長は増田）。当時</p> <p>●追加質問【青木幼児教育学科長】 10年以上機能しているということで、有効な組織と感じたが、特に優れた点をお聞きしたい。</p> <p>●回答【増田教授】 ざっくばらんに話し合っており、最前線にいる教員が今一番課題に思っていることを率直に発言している。複雑なカリキュラムを確かめ合うなど、機能している。</p> <p>●意見【青木 幼児教育学科長】 非常に柔軟性があり、構成メンバーの風通しのよさが組織として良いと感じた。</p> <p>●追加質問【三浦ALO】 生活科学学科では、似たような組織があるか、お聞きしたい。</p> <p>●回答【田中教授】 生活科学学科は、昨年度までは生活情報デザイン専攻・食物栄養専</p>

		<p>は、「選択履修プログラム」といった2回生の特色科目があり、これらの制度改革を主に議論していました。</p> <p>②組織の構成員 現在は、学科長、次長、学生指導主任（学年主任から変更）に加えて、各資格担当者を主たるメンバーとして構成しています。また、必要に応じて他の学科教員を招集する、とも決めています。なお、WG長は学生指導主任が担当しています。</p> <p>③活動内容・頻度 昨年度（2024年度）の活動を例に挙げますと、2025年度からスタートする「3コース制」の具体的なカリキュラム・新設科目の決定、認定絵本土に関わる科目についての確認などを行いました。開催頻度は特に決めていませんが、必要があれば月に2回ほど開催する場合があります。昨年度は5回ほど開催しています。学科会議に諮る内容の原案を作成するワーキングなので、率直な意見交換をする場として臨機応変に開催しています（2025年度では、8月に一回目を開催したところです）。</p>	<p>攻があり、専攻会議でカリキュラムについても検討している。</p> <p>●質問【三浦ALO】 必要性を感じておられないということか？</p> <p>●回答【田中教授】 現在は1学科1専攻のため、学科会議の中で風通しよく、皆が意見を言い合う場となっているため、必要性を感じていない。</p>
4	<p>キャリア支援課が実施した事業所アンケート及び卒業生に対するアンケートについて教えてください。</p> <p>①実施時期 ②回収率 ③事業所からの意見</p>	<p>①10月にアンケート用紙を郵送しています。（回答期限11月末）</p> <p>②昨年度（R6）の回収率は以下の通りです。 事業所：依頼数405 回答数297 回収率73.3% 卒業生：依頼数194 回答数061 回収率31.4%</p> <p>③求める人材像やDPにおける学修成果などについて、多くの意見を頂いております。 詳細は備付資料「18. 仁愛女子短期大学の卒業生に関する調査結果について」でご説明いたします。</p> <p>*資料表示 ・備付資料18. 仁愛女子短期大学の卒業生に関する調査結果</p>	<p>●追加質問【神澤 学生委員長自己点検評価委員会事務局ALO】 卒業生のアンケートについて、回収率が31.4%と低いが、回収率を上げるために工夫されていることや悩んでいることがあれば教えてください。</p> <p>●回答【高森課長】 31.4%は、回収率が高い方である。北陸三県で卒業生アンケートの回収率の話題のとき、20%以下が多かった。 本学では2年前から紙で郵送し、回答はGoogle Formで回答してもらう方式に変えた結果、5%ほどアップした。今年度以降も同様の形式で実施していきたいと考えている。</p> <p>●意見【神澤 学生委員長自己点検評価委員会事務局ALO】 本学もなかなか回収率が上がらないところが悩みであるため、参</p>

			考にしたい。
テーマ	B	区分	基準 I-B-3
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
5	<p>生活科学学科は、教育課程編成に係る意見聴取を定期的に企業等に対して行いフィードバックを得ています。これについて具体的に教えてください。</p> <p>①実施方法 ②企業から聴取した意見の概要 ③フィードバックの具体的内容</p>	<p>①キャリア支援課が毎年2月に主催する「学内業界研究会」において、いくつかの企業担当者の方に対して「教育課程編成に係る意見聴取」を実施しています。学科長から専攻での学び（デザイン思考、経験学習サイクル等）・Jin-tan DX人材育成プログラム・学修成果及びアセスメントを説明した後、「事業所アンケート」結果を説明し、意見交換を行っています。</p> <p>②令和6年度は4社の担当者（卒業生含む）・学科長・学科次長と実施しました。意見としては、社会人基礎力で重要なもの、学修成果の中で特に身につけて欲しいこと、卒業時に身につけて欲しい他のこと、卒業生の様子等を聴取しています。</p> <p>③意見聴取した結果を学科会議で共有し、DP・CP・学生支援の見直しに役立てています。学科における見直しに関しては、翌年度の代表教授会にて、共有しています。</p>	<p>●追加質問【友竹 地域連携センター長・生活科学学科長】 補助金の観点で、教育課程の編成に聴取した意見を生かしているか、というものがあるが、実際にカリキュラムを変更したとか、資格を取得できるようにした、といった実績はあるか。</p> <p>●回答【田中 生活科学学科長】 近年は大きく変更することはないが、10年前は、ポリシーの見直しを図っていた時期であるが、企業のトップや商工会議所の意見を聞き、CPに反映させたことがある。 補助金の観点から、代表教授会で審議し議事録に残している。</p> <p>●追加質問【友竹 地域連携センター長】 周辺の自治体から意見聴取はされているか。</p> <p>●回答【田中 生活科学学科長】 最近では自治体への意見聴取は行っていないが、協定を締結している福井市・永平寺町に実施できればと考えている。</p>
6	<p>教育の効果の特記事項に「学期末ごとに学修成果を可視化し学生へ示すことにより、学生自身が学修目標を定めるPDCAサイクルが確立されている。」とあります。</p> <p>(1)学修成果の可視化とは学修成果確認シートのことでしょうか。学修成果確認シート（備付-21）を見せていただくことはできますか。</p>	<p>(1)学修成果の可視化の1つとして、各科目の成績評価から定量的に作成する「学修成果確認シート」があります。その他、自己評価で学修成果を可視化するツールとして、全学の『充実した学生生活を送るために』、生活科学学科の「ラーニングポートフォリオ」、幼児教育学科の「キャリア・ルーブリック」があり、これらが連携してPDCAサイクルを確立しています。なお、学修成果確認シートは当日提示します。</p> <p>(2)セメスターごとの各科目の学びの統合に役立ち、学修成果に対する行動計画を立てられることが効果だと考えています。</p> <p>*資料表示</p>	<p>●追加質問【木下 法人本部事務局長】 学生全員の確認シート、ポートフォリオを担当者がチェックしているということで、よろしいか。</p> <p>●回答【田中 生活科学学科長】 その通りである。 以前に使用の学修成果確認シートには、クラスアドバイザーがコメントを書く欄が設けてあった。ポートフォリオについては、教養科目「人間と仏教Ⅱ」において取り組ませている。</p> <p>●【木下 法人本部事務局長】 学修成果の可視化は非常に難しく、特に学生に見せる取組みや自己評価を含めた評価を学生自身が確認できる方法がとても参考になった。</p>

	(2)この P D C A サイクル確立による効果を教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・備付資料 21. 学修成果確認シート ・備付資料 22. 修学ポートフォリオ「充実した学生生活を送るために」 	
テーマ	C	区分	基準 I-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
7	科目等履修制度及び研究生制度を整備されています。現在の在籍者数を教えてください。	現在の在籍者数は科目等履修生、研究生とも0です。	●追加質問 なし
8	<p>特記事項に、全教職員が特色は「地域連携」であることを共有し「これまで以上に地域・社会に貢献することを学内外に宣言した。」とあります。</p> <p>(1) 具体的にどのようなことをしようと考えたのか教えてください。</p> <p>(2) 学生の地域連携活動と学業とのバランス、教職員の地域連携活動と業務とのバランスはどのように保っているか教えてください。</p>	<p>(1) 2025年に開学60周年を迎えるにあたり、その前年の2024年に教職員によるリブランディングワークショップや学生からの意見聴取等を行い、本学の将来像を検討しました。その結果、地域連携を本学の特色として位置づけ、「ひらく、ここから。」をキャッチフレーズに定め、今後さらに地域に密着した高等教育機関を目指していくことを学内外に宣言しました。この経緯やキャッチフレーズに込めた思いは、開学60周年記念特設サイトに掲載しています。</p> <p>(2) 生活科学学科では、いくつかの授業科目や卒業研究に紐づけた地域連携活動を実施しています。リアルな課題に対するプロジェクト学習を経験することにより、学習への動機づけが高まり、理解が深まる効果があります。科目によっては連携活動の学習成果物（動画等）が成績評価の一部になっています。その他のボランティア活動等も含め、学業のプラスになっており、負担にはなっていません。幼児教育学科では、学生は主に「保育総合ゼミナール」において実習以外の実践の場として地域に出向いて保育に関する研究活動を行っています。地域連携活動としての教職員の講師派遣については、当該教員の業務に支障のない範囲で</p>	●【木下 法人本部事務局長】 本学も令和8年度に60周年を迎えるため、仁愛の取組みを参考にしながら、取組んでいきたい。

			対応を行っています。	
基準	Ⅱ 教育課程と学生支援			
テーマ	B	区分	基準Ⅱ-B-3	
No.	確認・質問事項		回 答	追加確認・質問事項
9	<p>生活科学学科では、学修成果の獲得状況の測定としてジェネリックスキルテスト、情報活用力診断テスト等、外部テストを用いているようですが、それらの外部テストを選んだ理由を教えてください。</p>		<p>学修成果に関する量的データの直接評価として、外部の客観テストを導入しました。2009年度から実施している「情報活用力診断テストRasti」は、導入当時に大阪商工会議所が後援していたこと、noa出版から教科書が出版されたこと、その後、全国大学実務教育協会の「情報処理士」領域1の認定テストになったことが選定理由です。</p> <p>2013年度から実施している「ジェネリックスキルテストPROG」は、導入当時は他に同様なテストが無かったこと、大学受験に強い河合塾と就職試験に強いリクルートが協力して開発したこと、国立大学でも大規模受験がされていたことが選定理由です。</p>	<p>●追加質問【奥井 FD委員長・教務委員長・生活科学専攻主任】 商工会議所、予備校、リクルート、他の国立大学等が選定理由に上がっていたが、先生方からみて客観的・有益と思えるものだったか？</p> <p>●回答【田中 生活科学学科長】 情報活用力診断テストは、1年前期の必修科目に情報リテラシーを学ぶ科目において、授業1、2回目にまず1度受験し、授業の最終回に再度受験させている。その科目を半期受講することで学生の成長が見られ、適切なテストである。</p> <p>ジェネリックスキルテストは、学び方、社会人としての態度に関するテストだが、就職試験に役立つ内容である。これも2回受験させている。(1回生4月、2回生1月)学生の資質も見ることができ、「キャリアプランニング」で自分の強み・弱みを知ることで行動計画を立てている。</p> <p>●意見【奥井 FD委員長・教務委員長・生活科学専攻主任】 内容が客観的で有益であるということが理解出来た。</p>
テーマ	C	区分	基準Ⅱ-C-2	
No.	確認・質問事項		回 答	追加確認・質問事項
10	<p>特記事項「保育者を目指す学生応援！プロジェクト」の特別奨学金についてご教示ください。</p> <p>(1) 仁愛女子短期大学独自の制度でしょうか。</p> <p>(2) 県側とどのような交渉のもと「保育特別奨学金」を獲得するに至ったか</p>		<p>(1) 福井県の「指定保育士養成施設における志願者応援事業」として、福井県と学校法人福井仁愛学園（仁愛大学・仁愛女子短期大学）とが連携して実施しています。</p> <p>(2) 近年における保育者養成校への入学者数の急激な減少は、県内唯一の指定保育士養成施設である本学園のみならず、保育者不足が顕在化している福井県にとっても深刻な問題です。このため、県と本学園において協議を重ねた結果、保育者不足の解消に向けて</p>	<p>●追加質問【稲吉 学務部長】 県との話し合いのプロセスまで示していただき、今後、行政との連携を進めるうえで参考になった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2025年度生から対象になっているが、現在何名が対象になっているか。 ・学生募集に影響はあったか。 <p>●回答【石川副学長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全額免除対象が7名、半額減免対象が13名、計20名である。 ・昨年9月の県の補正予算で検討されたことから、県内各高校への周知は少し遅れたため、効果があったかは不明だが、現在進行の令和8年度の募集活動で

	その経緯を教えてください。	<p>は、保育を目指そうとする学生への経済的支援が必要であるという結論に至り、本プロジェクトを制定しました。併せて、「福井県保育連携協議会」を設立し、行政・保育現場・養成校が連携しながら、県内の保育に関する諸課題について協議し、協力体制を構築することとしました。</p> <p>*資料表示 ・石川副学長作成のPPT資料</p>	<p>は浸透されている印象である。</p> <p>●意見【稲吉 学務部長】 今後、早い段階での告知により、県外流出が抑えられる制度と感じた。参考になった。</p>
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
11	Moodleの機能と利用方法について具体的に教えてください。	<p>2004年度からLMS（授業管理システム）として使用しているMoodleですが、2020年度からは遠隔授業に対応するため、全科目及び各部署のコースを運用しています。授業では、シラバスの提示、各回の到達目標・授業内容の提示、授業資料の提示、課題の提出管理、小テスト、掲示板、アンケート調査、出欠確認等に利用しています。学び支援課では、学年暦・時間割・休講情報の掲載、学生への情報提供、履修希望のアンケート等に利用しています。現在では、授業や学生支援だけでなく、教職員の研修や会議、緊急時の連絡等、本学にとって必要不可欠なシステムになっています。</p>	<p>●【稲吉 学務部長】 2004年度に導入されているが、初期費用とランニングコストをお聞きしたい。</p> <p>●回答【田中学科長】 2020年度までは、情報系教員がメインで使用していたため、サーバー費用のみ。 2020年度以降から、全学生・教職員が一斉にログインする運用になったため、容量が大きいサーバーを導入し、セキュリティ面を考慮して専門の業者にメンテナンス依頼している。 Moodle 450千円 プラグインを込みで900千円</p>
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
12	「特別な配慮や支援を必要とする入学希望者の事前相談申請について」を作成し、運用されていますが、合理的配慮を行っている学生の人数と、具体的な配慮内容を教えてください。	<p>入学希望者の事前相談件数は、近年では2019年度入試で1件、2022年度入試で1件、2025年度入試で1件でした。事前相談の出席者や支援方法は、内容に応じてその都度検討し対応を行っています。</p> <p>現在1名の学生に対し修学支援を行実施しています。合理的配慮の内容については、診断書による医師からの指示に従って行っているため個人によって状況は様々です。</p>	<p>●追加質問【渡邊 学生課長】 本学でも、入学後に提出する学生が何人もいる。申請者以外で、困ったことがあればお聞きしたい。</p> <p>●回答【木戸学び支援課長】 そのような事例はない。事前相談をされた方には、授業を受けてみて配慮の必要を確認してもらうことにしているが、配慮の必要なく授業を受けることが出来る。</p> <p>●意見【渡邊 学生課長】 本学では、入学後に色々な対応が必要と感じる学生が増えてきたことから、質問をさせていただ</p>

			た。
基準	Ⅲ 教育資源と財的資源		
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
13	<p>研究成果発表会の「研究成果優秀賞」について教えてください。</p> <p>(1)1回の受賞者は何人ですか。</p> <p>(2)特典(賞金など)はありますか。</p>	<p>(1)優秀賞は1名です。他、発表した教員全員が参加賞の対象となります。</p> <p>(2)特典として、参加賞(3万円)および優秀賞(1万円)を翌年度の個人研究費に加算しています。</p> <p>*資料表示 ・規程集 121.「個人研究費規程」</p>	<p>●追加質問【山口 管理部長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発表者数について ・科研費申請について、一人の教員が複数申請した場合の研究費の加算額について <p>●回答【福岡次長】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の発表件数は、10名 ・複数申請した場合は、その件数分の加算としている。 <p>●意見【山口 管理部長】</p> <p>参考にして、科研費の申請率を高めたい。</p>
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-6
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
14	<p>「事務職員の採用・昇任は、『就業規則』に基づき行っている」とありますが、職員の採用に中長期的な計画はありますか。</p>	<p>人事管理は、学園法人事務局が大学・短期大学・高等学校・幼稚園に所属する事務職員を一元管理しています。中期的な計画については、福井仁愛学園将来構想第3次中期計画(令和4年度～令和8年度)において、大学・短大の組織改組に合わせた事務組織の改組計画(事務組織の統合や、年齢構成や適材適所を勘案した職員の採用・異動等)が法人本部の施策に盛り込まれ、計画に沿って実行しています。</p>	<p>●追加質問【山口 管理部長】</p> <p>部門間の異動で困ったことがあった。退職金の取扱いは、どのようにされているか。本学の場合、短大・高校間での異動の場合、退職金財団が異なり、差額が出てしまったことがあるためお聞きしたい。</p> <p>●回答【吉川 法人事務局次長】</p> <p>本学は大学及び短期大学が退職金財団、高校及び附属幼稚園が退職金社団に加入している。社団加入者が大学・短期大学に異動しているが、差額が出ないように調整している。</p> <p>現在は、採用時の所属に関係なく、財団に加入するようにしている。</p>
テーマ	B	区分	基準Ⅲ-B-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
15	<p>学生が使用するパソコン等について、入学時に斡旋している端末はどのようなものでしょうか。また、「貸出用のノートパソコンも拡充している」とありますが、①貸出用台</p>	<p>斡旋はしていませんが、推奨するノートパソコンのスペックは、CPUがIntel 第8世代Core i5以上かAMD Ryzen 5 3500U以上、マックの場合はApple M1以上です。なおメモリは8GB以上、Wi-FiとWEBカメラ付きを推奨しています。</p> <p>①短期貸出用 30台、長期貸出用 20台</p> <p>②短期貸出月 20回程度、長期貸出</p>	<p>●追加質問【山口 管理部長】</p> <p>長期貸出用のPCの貸出期間をお聞きしたい。</p> <p>●回答【辻岡 情報メディア教育支援室長】</p> <p>半期毎にチェックしている。特に今年度は、Windows10から11にアップグレードしなければならないため、確実に回収し、必要な学生には再度貸し出す段取りをしている。</p>

	数 ②貸出頻度について教えてください。	は8割程度貸出中	
16	年度末に行われている「学長と学生会との懇談会」はどのように実施していますか。	在学生代表の学生会役員と学長および主要教職員との率直な意見交換の場として、年に1度1時間程度の懇談会を実施しています。主な流れは、学生会役員が大学祭等の学生会の活動報告及び全学生を対象とした”学生会アンケート”の結果報告を学長等に対して行い、その内容を踏まえ、学生会役員からの意見や要望に加え、学長等の教職員からも本学の取り組みや学内環境等について学生に対して率直な意見を求めます。得られた学生の生の声を受け、充実した学生生活を送るための学内環境の整備や各種企画の検討等の参考としています。	<p>●追加質問【吉澤 自己点検事務局・広報課長】 懇談会での要望をうけて、改善・対応されたことで効果があった事例はあるか。</p> <p>●回答【木戸 学び支援課長】 冬期間、学生ホールが寒いという意見から、事務局に相談しブルーヒーターを設置し対応した事例がある。</p>
テーマ	B	区分	基準Ⅲ-B-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
17	各館の出入り口に防犯カメラを設置されていますが、その台数と運用について教えてください。	短期大学に10ヶ所、同一敷地内に設置する附属幼稚園に5ヶ所、計15台設置しています。防犯カメラは録画しており、不審者侵入時の状況が確認できる状態にあります。また、土曜・日曜・祝日等、警備員の常駐対応時には、モニター（守衛室及び事務局内の2ヶ所に設置）で確認しています。	<p>●追加質問【矢澤 事務局長】 しっかり警備されているという印象である。警備員の委託をされていることで、導入の経緯と費用をお聞きしたい。</p> <p>●回答【吉川 法人事務局次長】 経緯は、女子短期大学であること、車で登学が多いこと、近隣で発生する不審者対応など、安全に配慮するため警備を入れることにした。経費については、月339千円、年間4,000千円である。</p>
テーマ	C	区分	基準Ⅲ-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
18	拡大学科会議の頻度と参加する非常勤教員の割合を教えてください。	年1回9月に実施しています。生活科学学科の非常勤教員参加率は、2020年度47.9%(23/48)、2021年度34.1%(15/44)、2022年度38.9%(14/36)、2023年度39.5%(15/38)、2024年度52.8%(19/36)です。このうち、2020～2023年度はzoomでの実施、2024年度から対面で実施しています。	<p>●追加質問【山口 管理部長】 拡大会議の開催時期が、前期・後期の間になるが、参加者は前期の授業を持つ方が多いか、後期の授業のみ担当する方が参加されるか、お聞きしたい。また、非常勤からの意見の事例についてお聞きしたい。</p> <p>●生活科学学科 回答【田中 生活科学学科長】 生活科学学科に関しては、昨年度、食物栄養専攻が最終年であつ</p>

		<p>幼児教育学科の非常勤教員参加率は、 2020年度 48.2%(14/29)、2021年度 41.1%(14/34)、 2022年度 56.7%(17/30)、2023年度 54.5%(18/33)、 2024年度 53.3%(16/30)です。 このうち、2020～2022年度はzoomでの実施、2023年度から対面で実施しています。 *資料表示 ・備付資料 30. 拡大学科会議報告（幼児教育学科のみ）</p>	<p>たが、昨年度授業を担当していない先生にも案内したところ、出席いただけました。後期、あるいは次年度の授業実施に向けて参加される方だけではなく学生の成長状況の確認のために参加してください。</p> <p>非常勤からは学生対応で困ったことを開示してもらい、その対応方法を共有している。</p> <p>●意見【山口 管理部長】 意見交換を行う場という位置付けということが理解出来たい。</p> <p>●幼児教育学科 回答【増田 学科次長】 実施内容を説明。発言内容は、議事録に残し、代表教授会で共有している。</p>
19	<p>情報メディア教育支援室に職員を配置し技術支援をされています。</p> <p>(1)組織の概要とスタッフ構成を教えてください。</p> <p>(2)学生及び教職員への具体的な支援内容を教えてください。</p> <p>(3)Moodleの開発・設計・管理や教職員講習会もこの支援室が担っているのですか。</p>	<p>(1)室長1名、スタッフ2名です。</p> <p>(2)情報デザイン系授業サポート、MOS試験運営、学生へのITサポート（WiFi設定等）、大判ポスター印刷、PC機器貸出、図書室運営支援、学内演習室環境整備です。</p> <p>(3)Moodleの開発・設計・管理は専門の保守業者と提携し運営しています。教職員講習会はFD委員会と共同で実施しています。コンテンツ作成や講師は情報メディア教育支援室が担当しています。</p>	<p>●追加質問【矢澤 事務局長】 スタッフが3名おられ、手厚くサポートされている。本学は専門のサポート室がないため、事務職員で多少理解のある職員が対応している。 学生はほぼ全員がPCを持っていると思われるが、故障・トラブル・操作方法などの質問への対応はどうされているか。 教員の持つPCへの対応もどうされているか。 スタッフの研鑽（ハード・ソフト・セキュリティ面）はどうされているか。</p> <p>●回答【辻岡 情報メディア教育支援室長】 支援室はガラス張りで開かれた状態であり、教職員・学生の区別なく、いろいろな相談を受付けている。 ウイルス・セキュリティ面においては支援室に連絡するよう統一しており、状態を判断し業者に依頼している。 スタッフの研鑽において、セキュリティ面は辻岡室長が指導している。教育面においては、本学ではMOS検定試験を実施しているため、監督ができる資格を保有している。</p>

基準			
I 建学の精神と教育の効果			
テーマ	A	区分	基準 I-A-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
1	<p>基礎資料(1) 学校法人の沿革の記載で、平成29年4月に開設された「介護福祉士実務者学校」というのは、どのような目的、位置づけの機関なのでしょうか。</p>	<p>介護福祉士実務者学校は、本学学生の介護資格取得のためだけではなく、地域の介護者養成に貢献することも目的として開校しました。本学は以前から介護職員初任者研修や介護技術講習会を実施し、学生はじめ地域の介護者養成にも尽力してきましたが、制度の変更等に伴いそれらを廃止しており、それに代わる新たな資格取得の学びの機会として開設したという経緯があります。</p> <p>この学校は、本学とは別の学校であるという位置づけです。そのため、当該校では介護福祉士実務者資格が取得できるカリキュラムを開講していますが、学生が受講しても卒業単位にはならず、受講料も別途必要になります。但し、本学の基礎教養科目「介護福祉の基本」を受講すると、当該校の授業の課題が理解しやすくなるなど、介護に興味を持った学生の学習を支援しています。</p>	<p>●追加質問【禿 学長】 集中講座のようなものなのか、あるいは学校教育法上の学校として各種学校のようなものなのか、「学校」という名前が付いているがどういう位置づけなのかをお伺いしたい。私どもの設備や施設にはかなり余剰が出てきているため、今後学校法人として展開できるように何か参考にさせていただけることがあるかなという観点でお伺いした。</p> <p>●回答【太和田介護福祉専攻主任】 介護福祉士実務者学校として関東厚生局に申請し、認められた学校。この学校は通信課題で受講生が各自持っている基礎科目によって受講時間が変わる。無資格の方は19科目程度提出してもらい、夏休みのスクーリングと合わせて資格取得となる。</p> <p>●質問（新規）【禿 学長】 基準 I-A の特記事項の中で、全学集会は学科・専攻が主体と記載されているが、全学的行事の企画実施にあたり調整を行う全学的な組織というのはどのようになっているか。</p> <p>●回答【坂上 全学集会プロジェクト長】 全学集会ではプロジェクトのメンバーが学生に司会の指導等の朝練習をして、宗教的な行事を月に1、2回ほど行っている。全学集会プロジェクトは職員から2名、教員から7、8名選出されている。</p>
2	<p>基礎資料(4)「わいわいひろば」の詳細について、ホームページで確認できませんでした。学校側の受け入れ態勢について、具体的に教えてください。</p>	<p>受け入れ体制については、以下のとおりです。</p> <p><開館日> 月曜日から金曜日（月1回休日開館あり） 但し、国民の祝日、年末年始、学校の行事等により休館となる場合があります。</p> <p><利用時間> 9:30～14:30 <利用料金> 無料（但し材料費</p>	<p>●追加説明（友竹 地域連携センター長） 「わいわいひろば」は未就園児が対象、預かり保育は実施していないため親子で利用していただく。飯田市の中でも広い施設のため、非常に多くの方に利用していただいている。実績は「R6 地域子育て支援拠点事業実施報告書」を参照。子育てに関する相談窓口もあり保育士たちが相談にのってい</p>

		<p>等をご負担いただく場合があります。)</p> <p>ホームページは以下のアドレスで確認をお願いします。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わいわいひろば HP ・活動内容 ・R6 地域子育て支援拠点事業実施報告書 	<p>る。補助金の対象のため、それも含めて積極的に活動を行っている。運営の部分だが、飯田市から地域子育て支援拠点事業という補助金をいただいて、常勤1名・非常勤6名の保育士で運営している。基本的には平日開館だが、今年度に関しては講演会を伴うという条件で土日開館も行っている。イベントの募集に関してはLINE を使っており、LINE を登録した方にイベントをお知らせしている。</p> <p>●追加質問【中尾 点検評価推進室長 (ALO)】 先ほど拝見した写真の中に、学生が写っているが。</p> <p>●回答【友竹 地域連携センター長】 学生が授業、またはボランティアでわいわいひろばに入って活動している。学生以外にも中学生や高校生のボランティアさん等、多くの方に来ていただいている。</p> <p>●追加質問【中尾 点検評価推進室長 (ALO)】 授業の中でとのことだが、複数の科目の中での学生の体験活動という形なのか、単独の科目なのか等、もし可能であれば教えていただきたい。</p> <p>●回答【青木 幼児教育学科長】 学生は1年次、人間関係の領域の「人との関わり」という科目の中で入っていた。2年次は他の科目で実際に子どもたちと関わる時間を持つことができるようなカリキュラムを組んでいる。また他にも、わいわいひろばで行われる夏のお祭りのブースを学生が企画したり、乳幼児向けの持ち帰りのおもちゃなどを作ったりすることを授業の中で行っている。</p>
テーマ	B	区分	基準 I-B-3
No.	確認・質問事項		追加確認・質問事項
3	<p>「卒業認定・学位授与の方針 (DP) は、学習成果に対応していることを確認し、」(p. 20)とありますが、どのように確認をされておられるのか、DPと学習成果との</p>		<p>各学科・専攻の DP と学習成果については、各学科・専攻会において毎年確認しています。また、令和7年度には教務委員会において、全学および全学科・専攻で対応しているか確認をする予定となっています。また、DP をめざす姿とすれば、学習成果は学生が身につけている具体的な成果物</p> <p>●追加説明【奥井 教務委員長】 令和6年度に教育目的・目標と3つのポリシーを全て改定し、現在学習成果と少しズレが生じている状態だが、今年度で全て新しいものに揃えたいと思っている。この関係付けというのは学習成果が達成されれば DP が達成されるというような、一般的な考え方やっている。</p>

	関係付けと併せてご教示ください。	として関係付けており、文言も「(学生が)～身につけている」と全学で統一した表現を用いています。	<p>●追加質問【石川 副学長・幼児教育学科長】 DP と学習成果は一心同体なのかということをお伺いしたかった。例えば幼児教育学科を例にすると、3つのディプロマポリシーと7つの学習成果が示されているが、7つの学習成果の獲得をもって3つのDP が自然と満たされると解釈してよいか。 何かの理由で一つの DP だけが満たされないということが起こり得るのかどうかということをお伺いさせていただいたかった。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長】 私の考えとしては、一心同体と考えている。学習成果を全て達成できれば DP が達成されているはずだという、メカニカルというか機械的な感じで上手く作ろうと思っている。私の目から見て少し欲張っているという学習成果も散見されるため、そこは本年度調整したいと思っている。</p>
テーマ	C	区分	基準 I-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
4	公開講座の開講数が 47 講座とあり、専任教員の数よりも多くの講座が開講されているが、企画の学内募集方法や集客のための告知方法、講座当日の実施運営体制などについてご教示ください。	<p>公開講座の募集については、学内すべての教職員に、前期・後期が始まる前に専用の申込フォームを送信しています。その他、個別に声がけをしています。</p> <p>集客のための告知は、公民館等にパンフレットを置いてもらったり、個別に発送したりしています。また、講座ごとに個別チラシを作成し 関係するところへ配付しています。当日の運営は、地域連携センターの職員が準備・受付・片付けの対応をしています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 前期公開講座 ・R6 後期公開講座 ・R6 地域連携センター議場（公開講座） 	<p>●追加説明【友竹 地域連携センター長】 開講数を 47 にしてあるのは、改革総合支援事業の補助金の関係で 40 以上というノルマがあり、実際には開催人数が集まらなくて開催されないというのもあるため、それ以上という形でいくつも準備している。先生方には 40 以上をノルマにお願いしている。募集については、先ほどのわいわいひろばは若いお母さんたちに向けて LINE を使っているが、これに関しては、公民館にパンフレットを置いたり学校のホームページを見ていただいたり、これまで出ていただいた方に郵送でお送りするような形で、少し昔ながらの方法で募集をしている。はがき、メール、FAX など電話以外ならどんな形でも受け付けている。講座については、前期 20 後期 20 用意している。学内の教員以外の先生にもお願いして講座を開催している。</p> <p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 この 47 講座の数は非常に多いと思いき、教員数からしてある程度のノルマのような、最低一つは各教</p>

			<p>員が引き受けてほしいというような案内をしているのかどうか、教員がそれに従うようなルールができていいのかご教示ください。</p> <p>●回答【友竹地域連携センター長】 ルールはないが、出せる人はとにかく出してくださいと、こちらからお願いするケースもある。この講座は人気があるからぜひお願いしますという形で、多く引き受けてもらう教員もいる。</p>
5	<p>出前授業 52 件と件数が多いが、どのように告知をしているか。出前授業の告知方法と、学内の実施運営体制についてご教示ください。</p>	<p>出前講座の告知は、公開講座と同じようにパンフレットを、公民館・小中学校へ送っています。また、前年度出前講座を利用した学校からは、次の年も同じように声がかかることが多くあります。学校保健委員会での利用も多くあります。</p> <p>運営については、地域連携センターが窓口となり、教員との日程調整をします。日時決定後は、教員と先方でのやり取りになります。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 出前表紙 ・R6 出前中面 ・R6 地域連携センター事業（出前） 	<p>●追加説明【友竹 地域連携センター長】 52 件となっているが、地域の小中学校からの依頼が多いため、先ほどの公開講座と違って、放っておいても集まるくらいたくさん声をかけていただく。現地に行って講座を開催するという形だが、実習のように行う先生もいるため、講義ではない形もある。日程調整をそれぞれの先生と直接交渉して行ってもらうという点が、出前講座と公開講座の違う部分。現地では担当の方が準備をしてくださるので、教員は体だけ持って行き講義をするというような形。</p> <p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 小学校中学校の講座を引き受けることによって、学生募集につながるよう意識しているか。小学校中学校の時から短大に来るといいよ、というような仕掛けのようものを意識して引き受けられているのか。</p> <p>●回答【友竹地域連携センター長】 学生募集は大いに意識している。保健の関係の看護学科、介護等あるので、性教育等の依頼が多くある。小さい頃から短大に親しみを持てるような工夫をしている。本当に近いところの小学校は、こちらからお願いしてこういうのはどうですか、というような申し出をしているケースもある。</p>
6	<p>包括連携協定を締結している大学との具体的な連携活動についてご教示ください。</p>	<p>本学は、平成 27 年に、愛知大学と包括連携協定を結びました。協定書第 2 条の連携・協力事項には、学生の交流、共同研究の推進、シンポジウム等の共同開催、教職員の相互交流、施設の共同利用、その他、と 6 項目があります。具体的な活動では、愛知大学より本学公</p>	<p>●追加質問【禿 学長】 愛知大学との連携内容について、十分に理解した。愛知大学との連携も含めて、文科省では大学間連携、関連科目の連携促進についてアナウンスがあるが、このことについて愛知大学との連携強化、あるいは地域大学との連携強化等について方向性や考えがあれば</p>

		<p>開講座への講師派遣と、本学の教室を愛知大学の地方入試会場として提供しているという活動があります。公開講座への講師派遣はコロナ禍以降停止しています。今後は、学生の地域政策に関する共同研究やフィールドワーク、正規科目への講師の派遣、教員同士の研究会などに連携活動を広げていきたいと学長同士で意見交換がなされています。</p>	<p>教えていただきたい。</p> <p>●回答【武分 学長】 現在、そのための仕掛けを作り出している。 近いところでは、伊那市にある南信工科短期大学と包括連携協定を結んだ。ただし専門学校のため、単位互換に関しては課題がある。 飯田市の同地区に飯田コアカレッジ、長野県飯田技術専門学校という専門学校があり、9月25日に包括連携協定を結ぶ予定で準備を進めている。 近いところに大学が無く、連携が難しいため、まずは専門学校等と連携を結び、今後は遠隔で連携ができるよう協議を進めていく。</p>
7	<p>ボランティア活動の「地域貢献活動」としての単位取得要件はどのような程度を想定されているか、また評価並びに認定の仕組み（委員会組織など）についてご教示ください。</p>	<p>社会貢献活動(ボランティア等)について在学期間中に取り組んだ活動時間数が30時間を超えた場合に、実践レポートの作成及び所定の書類を教務課へ提出することで単位認定を行っています。</p> <p>【提出書類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「単位認定申請書」、30時間以上(累計)の「活動実践記録」、「社会貢献活動の実践レポート」 <p>単位認定までの手順、詳細については令和6年度学生便覧P26及び各学科・専攻のシラバスに記載しています。</p> <p>*資料表示 【備付資料】社会貢献活動</p>	<p>●追加質問なし</p>
8	<p>貴学は令和6年度私立大学等改革総合支援事業(タイプ3:地域連携型)に採択された短大4校中の1校ですが、補助金採択のために特に取り組まれている事など、アドバイスいただきたい。</p>	<p>自治体や産業センターと連携協定を結んで、地域課題解決に向けた取り組みを行っています。地域経済活性化プログラムや防災プログラムの共催のほか、地域の特産品や伝統野菜を使った商品開発、伝統工芸の普及活動などを学生といっしょに実施しています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田産業センター協定書 ・開発パン R6 ・菓子&弁当 R6 ・開発商品(スミツネ)HP情報 ・地域経済活性化プログラム R6 	<p>●追加質問【福岡 事務局次長】 補助金を獲得するのが毎年その質問の難易度が上がっていく中で、令和6年度に改革総合の補助金を取られたというのはすごいことだと感じる。飯田短大さんは地域に根差した短大を実践されていると思った。 追加での質問になるが、改革総合のタイプ3を取る上で、地域連携推進に関する目標を立ててそれを実践するという流れになっている。それ以外にも包括連携協定や地元自治体・産業界と覚書を交わすなど様々なことをされているが、この覚書を交わす際の経緯を教えていただきたい。</p> <p>もう一点、補助金について、改革</p>

			<p>総合も特別補助の一つになっているが、貴学の特別補助の獲得を見ると、社会人の入学生受け入れの整備、環境整備の補助金を獲得している。社会人の受け入れに寄与している取り組みがあれば教えていただきたい。</p> <p>●回答【友竹地域連携センター長】 覚書については、先に共同で活動しているケースがほとんど。例えば店などと共同開発を行い、商品開発等を進める中で覚書をお願いするケースが多い。こちらから声をかけることもあれば、相手方から声をかけていただくことも多い。</p> <p>社会人の受け入れについては、長期高度人材育成という制度がある。介護・福祉・栄養士・保育士については社会人向けのそういった制度（補助金）を利用して多くの方が入学してくれている。</p>
--	--	--	--

基準	Ⅱ 教育課程と学生支援		
-----------	--------------------	--	--

テーマ	B	区分	基準Ⅱ-B-1
-----	---	----	---------

No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
10	<p>「学習成果については、以下のように具体性のあるアセスメント・ポリシーを示し、学習成果の測定を可能としている」（p.33）とあります。</p> <p>(1) 学科・専攻によって、項目に違いがあるように見受けられますが、これは何か理由がありますか。ご教示ください。</p> <p>(2) ここで示された項目は、学生が獲得する個人レベルのものと、学科・専攻としてその達成度をみる組織的レベルのものが混ざっているように見受けられます。</p>	<p>(1) 学習成果の測定に学科・専攻によって項目に違いがある</p> <p>(2) 測定項目は学生が獲得する個人レベルのものと、学科・専攻としてその達成度をみる組織的レベルのものが混在している、とのご指摘はその通りです。理由としてはこれまで各学科・専攻会において学習成果の測定（アセスメント・ポリシー）の見直しをはかってきた点にあります。令和7年度には、教務委員会において全学及び各学科・専攻の学習成果及び学習成果の測定（アセスメント・ポリシー）の確認を行う予定になっています。ご指摘の視点も踏まえ見直しを行いたいと思います。</p>	<p>●追加質問【石川 副学長・幼児教育学科長】 学習成果をフィードバックすることも個人レベル、学生レベルでのフィードバックと、学科専攻という組織レベルのフィードバックもあるかと思うが、そのあたりも含めてのご検討という理解でよいか。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 学生が身についたことは私たちにとっても大変喜ばしいものだ。だからそれ自体が組織へのフィードバックにもなる。この目標はちょっと無茶だったかなとか、もうちょっと欲張ってもいいかな、というのもやはりフィードバックになる。こういったことを考えて見直し体制まで含めて今年度構築していきたいと考えております。</p> <p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 生活科学専攻のDPについて、学習成果は自分のやりたいことに対してどれか1つを深く学んでも良いという風に読み取ることができた。学習成果は3つの分野</p>

	御校の学習成果の考え方についてご教示ください。		<p>について深く学ぶものは1つで良いが、3つとも最低限のところは身につけてほしいという指針で作られているという理解でよい。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 おっしゃる通りで、どれか一つをしっかりとやりたいという学生もいれば、どれか一つを軸にしてあとは少しずつ触れたいという学生もいる。学生の願いを第一に叶えていけるよう、それに見合ったDPやAPになるよう作り直していきたい。そういった願いを個人的にも団体的にも持ってやって行きたい。</p> <p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 アセスメントポリシーの4番目が卒業制作における作品評価と書いてあるが、これはデザインの部分を見る昔の名残で、これから見直すという理解でよい。</p> <p>●回答【奥井 教務委員長・生活科学専攻主任】 その通りだが、卒業制作自体は継続する。全員が卒業制作をしないと満たしていないというような理解にならないよう、矛盾のないアセスメントポリシーを作っていく。</p>
テーマ	B	区分	基準Ⅱ-B-3
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
11	<p>学科・専攻で実施しているポートフォリオ及びルーブリックの作成方法や運営方法に関してご教示ください。</p>	<p>1. 作成方法</p> <p>(1)幼児教育学科：「履修カルテ」、「保育内容5領域チェックリスト」の二つを用いている。「履修カルテ」は、専門科目の到達目標において、到達の状況を3段階で自己評価し、残された課題を記述する冊子です。「保育内容5領域チェックリスト」は、保育の内容、指導法に関わる具体的な項目について、5段階の自己評価を行うリストです。</p> <p>(2)生活科学専攻：ポートフォリオとしては、学習成果を綴ることのできるファイル「学習成果ノート」を作成しています。ルーブリックでは、学習成果に対して3領域を4レベルで自己評価でき、その評価</p>	<p>●追加質問【田中 生活科学学科長】 生活科学専攻：3つの領域が多方になっているが、ルーブリックはどのような観点で作られているのか。 資料を見ると、学力の3要素に基づいて基本的なところを書いて、その後ポートフォリオ的に自分で記述させるようなものと理解すればよい。</p> <p>●回答【奥井 生活科学専攻主任】 3要素というのは多分小中学高校の言い方だと思うが、昨年度見直した教育目的・目標・3ポリシーも、実はその3つを大いに意識している。小中高でいうところの3要素を中心にした目的・目標・3ポリシーにしており、それをうまく学習していくことができたかというのを記入して綴っていく。そういったルーブリック・学習成果ノートになっている。</p>

	<p>に至った具体的内容及び次学期の課題を書く記述欄を設けて学習成果の具体的な内容を確認できるようにしています。</p> <p>(3)介護福祉専攻：学科の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、10の学習成果を卒業時の到達目標と到達状況として、ルーブリックで評価しています。</p> <p>(4)食物栄養専攻：専攻の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、以下に示す5つの評価基準に4つの点検項目を設定して評価しています。また、点検項目は評価点数として加算でき、合計点を算出することで総合的な学習成果を評価することが可能となっています。</p> <p>(5)看護学科：学科の卒業認定・学位授与の方針（DP）を受けて、以下に示す10の学習成果をルーブリックで評価しています。</p> <p>2. 運営方法</p> <p>(1)幼児教育学科：「履修カルテ」の記入は各学年、半期ごとに行います。「保育内容5領域チェックリスト」は、2年間の学びの振り返り時に活用しています。(2)生活科学専攻：「学習成果ノート」は入学時に学生に配布し、授業科目「キャリアデザイン」初回にこれを用いて学習成果等の説明をし、2年間の具体的な学習成果を綴るようになっています。ルーブリックは各学期の終わりに学生が記載し専攻主任に提出します。そのルーブリックを専攻教員が確認し、次学期の初めに返却することで学生にフィードバックしています。このルーブリックは写しをとり専攻主任が保管します。</p> <p>(3)介護福祉専攻：「私がめざす5つの力」のファイルを入学時に配布し、ゼミの時間にこれ</p>	
--	---	--

		<p>を用いて学修成果の説明を行っています。特に 2 年次から、介護福祉士の卒業時の到達目標を意識し、実習ごとに目標を意識し振り返りを行っています。</p> <p>(4)食物栄養専攻：「学習成果ノート」は、授業科目「キャリアデザイン」の初回に配布し、2 年間の具体的な学習成果を綴れるようにしています。ルーブリックは各学期の終わりに学生が記載し、学びの振り返りに活用しています。</p> <p>(5)看護学科：10 の学習成果は、入学直後の第 1 回キャリアデザインの際に配付し、評価方法の説明を行っています。DP に向けて、①1 年次・前期②1 年次・後期③2 年終了時③卒業時に現段階での到達状況を記入し、①②は担当アドバイザー、②③はゼミナール担当教員に提示しています。教員は、卒業までに、学生個々の目指す望ましい姿を描いていけるよう支援をしています。他、課題レポート評価、臨地実習評価などもルーブリックを活用し何ができることがこの授業科目において重要であるか、学生・教員が共有できるように努力をしています。</p> <p>*資料表示</p> <ul style="list-style-type: none"> ・R6 履修カルテ（学習成果） ・保育内容 5 領域チェックリスト ・【生活科学専攻】ルーブリック 2024 ・卒業時到達目標と自己課題学習成果 ・卒業時到達目標と自己課題ルーブリック ・【食物】学習成果自己点検表 ・R6 看護学科学修成果・ルーブリック：学生配布 （【生活】学習成果ノートは実物を提示） 	
テーマ	C	区分	基準Ⅱ-C-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項

12	<p>長期履修学生入試の実施方法や告知方法、入学後の取り扱い等の詳細をご教示ください。本学では長期履修学生の募集を行っていないため、参考とさせていただきます。</p>	<p>長期履修学生入試については、長期履修学生募集要項に則り、事前相談を経た後、「書類審査」・「小論文」・「面接」を実施しています。入学後の取扱い等については「規程集-長期履修学生規程」により定められています。また、告知については学校案内、本学ホームページで行っていますが、積極的な広報を行っていません。個別の問い合わせを受けた後に対応しているのが現状です。なお、近年においては、所定在学期間での卒業が困難な場合や、半期の履修科目を軽減した上での卒業を目指したい学生の意向を汲み取り、転籍として当制度を利用することが多くなっています。</p> <p>*資料表示 ・【備付資料】長期履修学生</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 長期履修学生の在籍数のカウントというのはどのような扱いになっているか。</p> <p>●回答【稲吉 学務部長（兼教務課長）】 在籍数のカウントについては正規の学生としてカウントしている。年数に応じて配当される学年というのが決まっており、2年間、仮に4年間で長期履修制度を使った場合は、前半の2年間で1年生、後半の3年目・4年目の2年間で2年生という形でカウントして、各種学校基本調査や個人基礎調査の根拠として正規の学生として報告している。</p> <p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 就業定員の充足率に影響を及ぼすということは、今の回答で対応しているのか。</p> <p>●回答【稲吉 学務部長（兼教務課長）】 学生の数に含めて報告している。</p>
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-1
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
13	<p>優秀な学生に対して、学びを深める様々な機会を提供していただけますが、学内集談会発表や紀要報告等への学生の具体的な関わりについてご教示ください。</p>	<p>優秀な学生に対する学びをより深める機会の提供として、指導教員の指導のもと研究テーマを据えた学習を行っています。その発表の機会として、卒業研究発表会や学内集談会、学会での発表、紀要報告を行っています。</p> <p>*資料表示 ・卒業の様子・学内研究集談会 ・梨ジャムのマカロン POP・どら焼き</p>	<p>●追加説明【友竹 生活科学学科長】 積極的な学生に声をかけ、地域での活動を研究としてまとめている。具体的には授業外で、県の依頼に対応し、梨を使った加工品（マカロン、どら焼き）を作成した。</p> <p>●追加質問なし</p>
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
14	<p>食堂のメニューについての打ち合わせはどのように行っているのか。また、食堂の営業時間等についてご教示ください。</p>	<p>・メニュー、営業時間に関するの打ち合わせを月一で委託業者（三和商会）2名と管理部長1名で行っています。</p> <p>・メニューについては、年度当初の打ち合わせの中で、業者が利益をとれること、学生・教職員の食事がなくて食べられないこ</p>	<p>●意見【大西 総合学務センター長】 報告書の38ページに、毎月打ち合わせを行う、営業時間を長くするなど、学生サービスにかなり力を入れていると思ったため質問した。本学の方でも学生サービスに関して工夫を凝らしているところだが、本校ももう少しきめ細やかな対応が必要と思った。</p>

		<p>とがないことを前提に設定を行い、定食 2 種類、定番メニュー3 種類として営業するように決めました。(弁当の販売も併せて行っています)</p> <p>(打ち合わせ内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食数設定を業者が行っているの で、学年暦を基にして、試験期間中のメニューであったり、実習に出してしまう学生がいる日や来学者が利用する日の確認を行ったりして食数設定をしてもらっています。また、打ち合わせ時間が 13:30~となっているので、その場で食事をしている職員の意見を伝え、メニューの要望を出し、検討してもらうことがあります。 ・営業時間について R6 年度 11:30~13:15 としていましたが、学生は、12:10 迄授業があること、交代で昼食をとる職員が 13:15 迄では食堂に行けないと言った理由により、R7 年度より 11:45~13:30 に変更してもらいました。 	
15	<p>カウンセリングについて外部カウンセラーを配置されているようですが、カウンセラーの人数と対応している曜日、時間等をご教示ください。また、予約の方法などもあわせてご教示ください。</p>	<p>①外部カウンセラーの人数：1 名です。</p> <p>②対応している曜日・時間：月 2 回程度・放課後に 3 人枠程度・一人当たりの時間は 1 時間程度です。</p> <p>③予約方法：希望者が健康センターで予約します。常駐する健康センター担当職員（養護教諭・衛生管理者）が対応しています。</p> <p>*資料表示 ・メンタルヘルスカウンセリングのご案内 6 月</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 (報告書 P38) センター長が看護師及び養護教員免許所有者、常駐する担当職員は養護教員及び衛生管理者の免許を持つ方でカウンセリングには携わっていないという理解でよいか。 本学では専門の養護の先生がおらず、昨年度までは二名のカウンセラーを週 2 回（毎週水金/火水）配置していた。学生の相談数に繁忙期、閑散期もあることから、今年度は費用対効果を考え週 1 回に変更した。 貴校は月に 2 回との事で、学生の相談はそれで十分回転しているという理解でよろしいか。</p> <p>●回答【澤田 健康センター長】 それぞれ養護教員の免許を持った者が配置されており、日々来室する学生への対応の中にはカウンセリング的要素も含んでいる。更に専門職のカウンセラーにお願いしたいという希望のある学生に対してはつないでいるということ。 学生はいろいろ相談する相手を選んでいる。本学では主にアドバ</p>

			イザーが日々のケアをしている。学生課の方でも相談に乗っており、様々な職員や教員が日々学生の相談に応じている。職員の窓口での相談対応もかなり多い。
テーマ	D	区分	基準Ⅱ-D-3
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
16	<p>学生生活課が学生生活支援、就職支援、障害学生支援と幅広く担当されていますが、教職員間の連携をどのように工夫し学生支援をされているのでしょうか。特に就職支援における学生への個別面談は、どのように行われているのか、また、フィードバック後の教職員間の具体的な連携についてご教示ください。</p>	<p>1年時の進路希望調査を学生課に提出後、それを基に学生と面談します。特に生活科学専攻、食物栄養専攻の学生と一人ひとり時間を取って面談します。</p> <p>他の学科専攻は専門職就職希望がほとんどですが、この専攻は企業に就職を希望する学生が多いため早い段階から就職活動の意識を高め、自己理解を深めるきっかけ作りを図っています。学科の教員・アドバイザーとはメールや内線電話で連絡を取り合っています。また学生課内でも職員同志が情報共有しながら学生支援をおこなっています。</p>	<p>●追加質問【大西 総合学務センター長】 (報告書 P39)全学生に面談した結果をクラスアドバイザーに対してフィードバックを行っているという理解したが、その時に不都合など生じていないか。</p> <p>●回答【渡邊 学生課長】 ほぼ全員が専門職就職する介護・看護の学生に関しては、より詳しい学科のアドバイザーに面談を任せている。学生への連絡はオクレンジャーシステムを利用してメール開封状況を確認し、奨学金の手続きで学生課を訪れた際などにも積極的に声がけしている。</p>
基準	Ⅲ 教育資源と財的資源		
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-2
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
17	<p>学内集談会発表について、評価をされているとのことですが、評価の方法とフィードバックの有無、相互連携の効果などを含めてご教示ください。</p>	<p>報告書において“評価”という表現を用いていますが、各教員の研究発表について忌憚のない意見交換を行っているという表現が正しいものとなります。なお、相互連携については学科専攻、教員、事務職員の垣根を越えて研究や発表を行うこともあり、互いの専門領域の理解促進、共同研究への発展などが効果として挙げられます。</p> <p>*資料表示 ・【備付資料】学内研究集談会</p>	<p>●追加質問【木下 研究活動委員長】 科研費の応募促進のための取り組みについて教えていただきたい。</p> <p>●回答【山口 管理部長(兼財務・庶務課長)】 一般的な応募手続きに関する説明会を実施しており、研究に前向きな教員へは共同研究も含め声掛けしている。</p>
テーマ	A	区分	基準Ⅲ-A-4
No.	確認・質問事項	回答	追加確認・質問事項
18	<p>改正設置基準以前より教職協働による組織体制を整えていらっしゃるとのこと、具体</p>	<p>学校運営、学生指導に関わるほぼ全ての委員会、学長諮問機関等において、従前より事務職員を配置して教職協働を行ってきました。また、月1回実施される拡大教授会においては、全ての教員と</p>	<p>●追加質問【熊木 事務長】 拡大教授会、専任教授会の構成員や審議事項について、教授会規定等でどのように定めているのか。</p> <p>●回答【稲吉 学務部長(兼教務課長)】</p>

	<p>的にご教示ください。</p>	<p>課長級以上の事務職員が一堂に会し、学校運営全般に関する事項、協議事項、報告事項を共有しています。その場に参加していない事務職員については、拡大教授会報告として翌日に情報共有を行い、非常勤職員に至るまで、全学において共通認識を持つように努めています。</p> <p>本学において教員と事務職員は学校運営における両輪であるという認識は、開学当時より受け継がれている精神であり、今日の組織体制はそれを具現化したものであると言えます。</p> <p>*資料表示 ・【備付資料】学務分掌</p>	<p>拡大教授会は教授、教授以外の教員及び課長以上の事務職員にて構成され、月1回開催している。専任教授会での審議については、学校運営に関わる重大事項、新規教員採用、昇格人事、刑罰や懲罰に関わるものについて議論するという規定を定め、それに則って運用している。</p>
--	-------------------	--	--

5. 編集後記 (ALO)

飯田短期大学 自己点検評価委員会 委員長 (ALO) 三浦弥生・事務局 (ALO) 神澤絢子

相互評価については、地域総合科学科適格認定評価委員会 (旧自己点検・相互評価推進委員会) が、自己点検・評価活動の定着と教育研究水準の向上及び質的充実の目的という役割を十分果たしたとして、令和6年度の実施をもってそれを終了しました。また、認証評価では令和7年度から第4評価期間となり、評価基準の一部が改訂となりました。そのような背景のなかで、仁愛女子短期大学様と本学の4回目となる相互評価が実現しました。ALOの立場で振り返りますと、相互評価実施の是非を決める際は、令和9年度の認証評価の予行練習的な意味合いを強く持っていたように思います。しかし、相互評価を終えてみますと、準備から実施に至る全ての過程において自己点検だけでは得られない緊張感や新たな発見があり、頂戴した多くの示唆からは新たな発想や転換の重要な視点を得ました。

来年度、本学はこの地に開学し60周年を迎えます。この相互評価で与えて頂いた視点や気づきを、この地域になくしてはならない高等教育機関として、また建学の精神「うつくしく生きる」という理念をもつ高等教育機関としてよりよく発展させ、その役割を十分に果たして参りたいと考えております。

最後になりましたが、今回の相互評価の円滑な実施あたり、仁愛女子短期大学点検評価推進室長でALOの中尾繁史先生をはじめご担当の教職員の皆様に大変お世話になりました。打ち合わせの段階より心安くご指導賜り、評価はもとより報告書の作成に至るまで大変なお心遣いを頂戴しました。この場をお借りして、心より感謝申し上げます。

仁愛女子短期大学 点検評価推進室長 (ALO) 中尾繁史

飯田短期大学様との相互評価も、今回で4回目を数えることとなりました。認証評価の中間期に実施されるこの取り組みは、単なる点検作業ではなく、仏教精神を基盤とした建学の精神を掲げる両校が互いの教育活動を鏡として自省し、共に学び合う極めて意義深い研鑽の場であることを再認識いたしました。

今回の評価では、特に「学修成果の可視化」や「DX人材育成」といった、新たな基準への対応が大きなテーマとなりました。本学が取り組む「学修成果確認シート」や「教育計画キックオフ会」について、飯田短期大学の皆様から頂いた多角的な視点でのご質問やご意見は、私たちの取組を客観的に見直す貴重な機会となりました。また、飯田短期大学様の「うつくしく生きる」という理念が全学集会等を通じて学生に深く浸透している姿や、地域と密着した多層的な連携活動からは、本学の将来像を検討する上で多くの示唆を頂戴しました。

限られた時間の中、オンライン等の併用による複雑な日程調整にもかかわらず、率直かつ建設的な意見交換を支えてくださった飯田短期大学の教職員の皆様、ならびに本学の報告書作成に関わったすべての関係者に厚く御礼申し上げます。

今回得られた気づきと学びを、次期認証評価への備えに留めることなく、地域に根ざした「ひらく、ここから。」を具現化する不断の改善へと繋げていく決意を新たにしております。